

年 組 名前：



自宅の垣根でブドウを栽培している功刀博文さん。低農薬栽培ができる屋根付き垣根を考案した
＝甲府市中小河原町

甲府市中小河原町の元建築士、功刀博文さん(83)は、プラスチック製屋根付きの垣根で、ブドウを低農薬で栽培する方法を考案した。実用新案申請に向けて準備中という「安心して食べられるブドウができ、緑のカーテンや垣根にも利用できる。アイデアを多くの人に生かしてほしい」と話している。
〈桑原久美子〉



ブドウ 低農薬へ新方式

元建築士・功刀さん 屋根付き垣根 考案

功刀さんが考案したのは、幅約60センチのプラスチック製波形屋根を付けてブドウを育てる方法。ブドウに雨が直接当たらないことで農薬なしでも病気がかかりにくく、ハウス栽培より低コストで栽培できるという。

功刀さんは建築士業を引退した10年ほど前から、自宅の庭やベランダ、垣根を利用して、無農薬にこだわったブドウの栽培に取り組んでいる。初めは順調に成長したが、5年ほどで黒さう病や晩腐病が広がり、ほぼ枯れかけてしまった。雨よけの屋根を付けたところ病害がなくなったことから、建築士としての技能や経験を生かし、簡易な屋根付き垣根を設計した。

現在はシャインマスカットやクインニナなど約20本を栽培。今年は春先に1回消毒し、実を付けてからは農薬を使わず、木酢液などでアブラムシなどの虫害を防ぎ、約600房ができた。7月末から収穫できるようになり、一部を農産物直売所などで販売している。

ベランダなど狭く土のない場所でも育てられるよう、間伐材を使ったプランターのブドウ棚にも採用されている。

プランターと垣根を組み合わせれば、一般住宅の垣根や緑のカーテンにも活用できるという。功刀さんは「新しいガーデン造りやワイン用ブドウの無農薬栽培などにも活用してほしい」と話している。

(2025 年 9 月 20 日付 山梨日日新聞 18 面)

問1 甲府市の功刀さんは、どのような工夫で、低農薬のブドウ栽培をすることができましたか。

.....

問2 現在、功刀さんが栽培しているブドウを、2品種教えてください。

.....

問3 この栽培方法とプランターを利用することで、どのような活用ができますか。

.....